

「あけまして おめでとう」について考える

新しき年を迎ふるにあたりて、自らの来し方を思ひ出づれば、恥ずかしきことばかり多くして、穴がありせば入らんと思へども、腹がつかへて入ることあたわず。などと考えながらも、そこは教師としての立場から、始業式で子どもたちに次のような話をしました。

「あけましておめでとうございます。」と新年の挨拶をしたあと、ところで、「何がおめでたいのですか？」と問いかけました。先生も正月の挨拶語程度にしか思っていますでしたので、少し考えてみました。そして、たぶん「生きていることがおめでたい」という意味だろうと、思うようになりました。

縄文時代から室町時代にかけての平均寿命は14.6歳～15.2歳だと推定されています。(菱沼従尹:ヒシヌマシケカズ) 江戸時代になってようやく30歳台となり、明治時代は40歳台でした。戦後すぐの昭和22年(1947年)では男子50.06歳、女子53.96歳と厚生労働省が発表しています。

これらの数字が示すことは、「生きる」ことが大変な時代であったということです。実際、ほんの数十年前までは、子どもはちょっとした風邪や下痢で亡くなることも珍しいことではありませんでした。そうした時代に生きた人々は、新しい年を迎えると、「あー、今年も新年を迎えることができた。ありがたいことだ。」と思ったにちがいありません。

栄養状態の改善、公衆衛生の向上、医療技術の進歩等のおかげで、日本人の平均寿命は飛躍的に延びました。その結果、現代人の願いは、「よりよい暮らしがしたい」となり、そのためには勉強が大切。となっていくことは必然であったと思います。

しかしながら、際限のない競争社会のなかで、「生きているだけでありがたい」という価値観は、今を生きる子どもたちを救うような気がするなと、「あけまして おめでとう」の言葉から考えました。

※平均寿命と平均余命

- ・平均余命 ある年齢の人々が、その後何年生きられるかという期待値のこと
- ・平均寿命 0歳の平均余命のこと

ちなみに私の平均余命は24年、去年生まれた子どもの平均余命(平均寿命)はだいたい、男が79歳、女が86歳です。

小学校の算数は難しい ～割合はわりあい厄介～

5年生の算数「割合」の単元は、わりあい厄介どころか、子どもにとってきわめて厄介な学習です。小学校で学習する算数の内容の中でも、最も理解が難しい単元のひとつです。

前任校でも「割合」の学習の時は、授業に入らせてもらって担任の先生と複数で指導しました。本校でも、担任の先生にお願いして先日から2～3人で指導にあたっています。

今は、次のようなことを徹底して指導しています。

割合の問題を解く大切なポイント①

ただらと書いてある文章の中から、「()は、()の()倍」と正確に読み取りノートに書く。()の中には量を書くのではなく事柄を書く。量が分かっている場合は、事柄の下に数字を書いておき、分かっていない場合は□と書いておく。

問題：お父さんの体重は70 kgです。その0.6倍が僕の体重です。僕の体重はいくらでしょう。

こうした問題が出た時、「うーん」と頭をかかえてはいけません。言葉を整理することをまずします。つまり、(僕の体重)は(お父さんの体重)の(0.6)倍

□ 70 kg

この言葉の整理ができるようになると次の段階です。

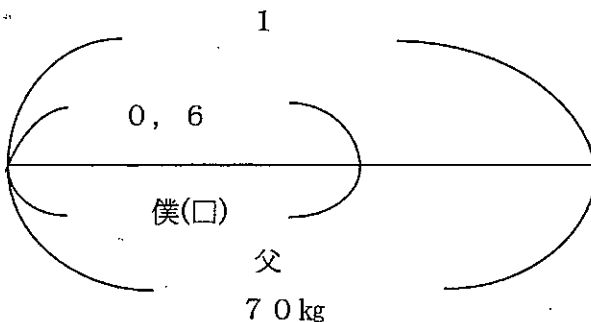
割合の問題を解く大切なポイント②

()は()の()倍 が正確にかけるようになったら、ややこしい文章を読んではいけません。「AはBのC倍」を見て、線分図を描きます。線分図の描き方が大切なポイントです。これが描ければ割合はすごく簡単になります。

《線分図の描き方》

- ①どんな問題でも(問題を読む必要もない)横に線を一本かき、上に1(倍)と書く。
- ②1と書いた線の下側にもとになる量の事柄を書く。量(数字)が分かっているら書いておく。わかっていなければ□と書いておく。
- ③②までの図の中にくらべる量を書き込む。線より上側には割合(○倍)を下側にはくらべる量の事柄を書く。数字が分かっているものはすべて書き込む。わかっていなければ□と書いておく。

上の問題では次のような線分図を描きます。



中学校に行けば比例の問題として、 $1 : 0.6 = 70 : X$ $X = 70 \times 0.6 = 42$ として解ける問題も、小学校の算数は難しいという一例でした。